

かゑらじと かねて思へハ 梓弓

なき数に入る 名をぞとどむる

四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第144号

令和4年6月14日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

公開講座「楠正行の生涯を学ぶ」第8回 近代の正行

四條畷神社創建に寄せる地域の人々の思い結実

公開講座第8回は、「近代の正行」と題し、明治以降、楠正行が当地・四條畷に与えた多大な影響を中心に学びます。

第8回 近代の正行 正行祀る四條畷神社創建で全国に発信

明治に入り、明治天皇が吉野朝正統を断ずると、全国規模で楠一族らの功績が見直されて、四條畷でも、小楠公墓所の拡張整備や四條畷神社の創建、なにわ鉄道の開通と四條畷駅の開業と進み、全国から年間30万人もの参詣者を迎えるようになると、甲可村改め四條畷村と改称するに至ります。

正行を祀る四條畷神社創建が当地にもたらした影響は大変大きいものでした。

● 小楠公墓所の変遷 ●

少し江戸期を回顧しておきましょう。

元禄期に当地を旅した貝原益軒が、正徳3年1713に発行した『南遊紀行』の挿絵に正行正時の墓（正行墳）が描かれています。

南遊紀行には、「畑の茶屋のかい道より、四町ばかり西に、刈屋村有り。此所に楠正行、正時兄弟の墓あり。大道のほとりにはあらず。小石碑を立て、大なる楠木あり。正行、正時、四條縄手にて、高師直と戦ひ、茲にて戦死の事、太平記に見えたり。飯盛山の麓の西也。是ふかうの池の北の側にあり。」と記しています。

この時、貝原益軒が見た正行正時の墓は、天正12年1584に建てられたもので、碑石には「南無権現」と刻されていました。この事について平尾兵吾は「北河内史跡史話」の中で、“南無は楠のナム又は南木と相通じることから、かかる文字を刻んで、天正12年<1584>、豊臣公大坂築城の当時までさへも、世を憚ったのではあるまいか。小楠公戦没後、代は敵の足利將軍の政権下となり、

降って徳川の治世となっても、共に楠公の墳墓を修めるようなことは決して行わなかったのである。”と記しています。

小楠公墓地経営略記には、“小楠公戦死後、尊骸を直ちに埋葬、小碑石（正長2年1429）を建て、両側に楠の木を植えて墓所となす。年を経て楠の木は成長して、一本に合し、小碑を胎内深く包摂するに至った。”と、記されています。貝原益軒の見た小石碑は、天正12年に新たに建立された石碑でした。

そして、明治7年、小楠公墓の拡張整備が進められました。総高さ7m50cmの巨石碑は、大東市竜間での切り出しに5か月、運搬に17か月、彫字に5か月、建碑に3か月半を要し、総工費7000円（現在の価値に換算して、約1億5000万円程度か）を掛け、明治10年12月完成、明治11年1月5日に建碑式が行われました。

「贈従三位楠正行朝臣之墓」の揮毫は、時の政治家大久保利通で、湊川の正成墓の免震構造に匹敵する強固な基礎が故、阪神淡路大震災等の巨大地震にも耐え、びくともせず立っています。

また、敷地内には、文化6年1809、村瀬栲亭撰「正四位下檢非違使兼河内の守楠公碑」が建てられ、4面にぎっしりと約2000文字を超える碑文が刻まれています。当時、彫刻料は一字ごとに金1朱を要すると伝わっていますので、現在の貨幣価値に換算すると1000万円を超える巨費が投じられたもので、正行を思う篤志家による建立と思われます。

● 四條畷神社の創建実る ●

実に、7年の歳月を要して建社運動が実ります！

四條畷神社の創建は、明治1年4月12日、住吉平田神社の神官、三牧文吾による小楠社造立勅許の願書を提出したことによって始まります。三牧は、兵庫湊川に大楠

公神社を勅許されたことを受け、小楠公墓地に小楠公社をと嘆願をしたのです。

三牧文吾は、後醍醐天皇侍講の末裔と自覚する元平田氏で、三牧家の養子となります。6月、再願しますが所属府県に申し出すべしと却下され、7月、三牧文吾は、大阪府司農局に嘆願し、続けて明治2年4月、河内県に嘆願し、9月、庄屋忠右衛門と連署の上、堺県役所に嘆願し、小川県令は証拠書類の提出を求め、直接の来村もありましたが、更迭され振出しに戻りました。

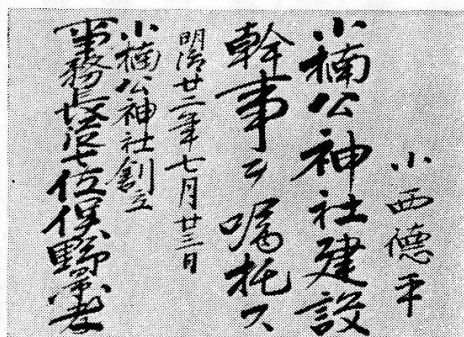
三牧文吾は、明治3年10月、明治4年1月、同3月と嘆願を繰り返す、この時は和田賢秀の墓碑設立も併願しています。

そして、終に明治7年 嘆願が聞き届けられ、「公然墓地の営繕をなすべき旨」が区長に達せられ、三牧文吾らの建社運動はここに結実をしました。

明治22年6月29日、神社創立特許が下りますと、7月23日、小楠公社創立規約を定め、事務長に枚方郡長俣野景孝以下、事務副長、幹事、出納掛、建設委員を委嘱しました。また、委員は98名(郡長1人、四條畷村46人、田原村3人、四條村14人、寝屋川村13人、住道村7人、豊野村10人、友呂岐村3人、稲田村1人)で、四條畷市域は49人を占め、建設事業遂行に活躍、貢献しました。

写真(右)のように、当初は小楠公神社名で建設開始をしますが、墓域は神社創建に景観宜しからずと、幕末維新の勤王学者・敷田年治の撰で「四條畷神社」に改称し、明治22年12月16日、社殿完成し、別格官幣社に列せられました。

合祀者は、主神正行他、正時、賢秀ら24名で、主神、合祀者の抽出経過は困難を極めたようです。小楠公墓地経営略記には、「堺県令税所殿、殉死の英雄合祭碑建設の御発起ありて、堺県師範



四條畷神社合祀者	
主神	楠正行
楠次郎正時	野田四郎、同人子息二人
楠左近将監正家	金岸某、同人舎弟一人
同人子息	関住良圓、同人子息
和田新発意賢秀	三輪西阿、同人子息
和田新兵衛	河邊石掬丸
和田紀六左衛門	譽田 某
同人子息二人	阿間了願
大塚掃部介惟久	青屋刑剖
畠山與三職俊	
畠山文郎	

学校長土屋弘氏に命じて、その姓名を調べさせるも不祥吉野如意輪堂に赴きて尋ねるも、旧記一切なくして不明然るに同君元老院議官に榮転せられ、修史館へ該姓名調べ御依頼相成り、大学者に於いて全国旧記に因り、終に右調べを了するも、数年間のお骨折り、漸く(ようやく)(明治)18年1月撰文成る」と記されています。

● 甲可村改め四條畷村に ●

四條畷神社の創建が、当地にもたらした影響は計り知れないものでした。

明治23年、神社創建と同時に浪速鉄道が開通し、参詣者を運ぶため、四條畷駅は明治28年に開業をしました。明治33年に発表された鉄道唱歌は、「四番：四條畷に仰ぎ見る小楠公の宮どころ 流れも清き菊水の旗風今も香らせて 五番：心の花も桜井の父の遺訓を身にしめて 引きは返さぬ武士の戦死のあとは此の土地よ」と、唱っています。

明治36年、本来ならば郡役所のある枚方市に開校する予定の大阪府立第9中学校(現在の四條畷高校)が人口たった3500人足らずの四條畷に開校します。

大正14年には、中野郵便局が四條畷郵便局と改め、その翌年には、南野分署改め四條畷警察署となります。昭和2年には、母・久子を祀る御妣神社があることから良妻賢母を校風とする私立四條畷学園が現在の地に移転・開校をしました。

ついに、昭和7年、正行を祀る四條畷神社を有するが故、公のほとんどの施設が四條畷を冠としたことから、甲可村改め四條畷村に改称するに至ったのです。当時の甲可村議会の議事録は、「交通機関の発達と行政機関の設置と呼応しつつ対内的に対外的に、共に歴史上有意義なる四條畷神社を中心とする最も意義ある四條畷村と改称せんとするものなり。」と、記しています。

● 小楠公墓所社務所の瓦に逆菊水 ●

菊水の家紋に「左から右に流れる菊水」と「右から左に流れる菊水」の二流があります。家紋の下半分の水流が違うのです。楠妣庵観音寺のある富田林を中心に南河内では、正成亡き後、久子の方が再び楠氏の隆盛を願って、今一度歴史の流れを変えようと、家紋の菊水の水流を変えた、との伝承が残っているのです。

そして、四條畷にもこの逆菊水の家紋が残っています。四條畷は、楠正行ゆかりの地として全国に親しまれてきたにもかかわらず、この逆菊水の家紋の存在がほとんど知られてきませんでした。しかし、ついに四條畷に発見しました。小楠公墓所の境内に残る社務所の瓦は、すべて、逆菊水の家紋が刻まれていたのです。

小楠公墓へのお詣り、お待ちしております。

(文責：四條畷楠正行の会代表 扇谷昭)